

# 桜中だより

長崎市立  
桜馬場中学校  
校長 大塚 潤

## 自信をつけ、やる気を引き出す言葉

### 褒めることは「サ行」

人間は、褒められていやな気持ちになる人は誰もいません。褒められる方が心地よく嬉しくなります。叱られるより、やる気を起こさせる「善玉のホルモン」です。人を褒めるという行為は、人を成長させる「特効薬」だといえます。

言葉で行われます。自信をつけ、やる気を引き出す元気の出る言葉かけには、「サ行(さ・し・す・せ・そ)」の文字のついた言葉を発しているという共通項があります。

- ・「失敗してもいいよ」  
完成・成功を求めないで、安心感が生まれ、心が楽になります。
- ・「すごいね」「素晴らしい」  
高く評価されるとことは嬉しいものです。自信がきます。
- ・「成長したよ」



いよいよ。美しいハーモニーを響かせようぜ

進歩の状況を認められると、更に頑張ろうとやる気が生まれます。

・「すごいね」「そのとおりだよ」  
同調され、共感的に受け入れられると、一体感が生まれ、心が安定します。

子どもの今の状況を受け入れて共感し、その上で認め、更にやる気を持たせる言葉が「サ行」に集約されています。

2学期になり、1ヶ月が経とうとしています。子ども達は、合唱「コンクール・駅伝・桜色のあいさつ運動」等の取組を通して、少しずつ、一步一步着実に成長しているように感じています。家庭と学校との連携を深くして、子どもの行為に「サ行」の言葉で返すことで子どもを成長させましょう。

## 2学期の抱負

「今日は桜が私の誇り  
明日は私が桜の誇り」  
になるために

2年2組 兒玉 春香  
私は、充実した夏休みを過ごすことができました。学習では、理解を深める

ためにワークを何度も解き直しました。部活動では、苦手をしていることを中心に練習をし、県大会に出場しました。自分を鍛える夏にすることができたと思います。

私は、1学期の諸活動を通して、「仲間と協力する力」や「最後まで粘り強くやり遂げる力」を身につけることができました。また、中総体では、先輩達が一生懸命にプレーしている姿を見て感動しました。次は、私たちが後輩を引っ張っていく番だと自覚が湧いてきました。そこで、私は2年生として、学校をよりよくしていくために3つの課題に取り組みたいと思います。

1つ目は、「授業の質の向上」です。授業中に私語をしている人がいます。最初は、一人一人ですが、

それにつられ全体の雰囲気が悪くなる場面があります。私語につられるのではなく、心にブレーキをかけ、真剣に授業を受ける雰囲気をもみなで広げていきたいです。

2つ目は、「欠席や遅刻の多さ」です。私は1学期に生活安全部として遅刻のチェックをしました。1週間に10人以上の人が遅刻をしていました。2学期には、修学旅行があります。全員で行けるように、体調の自己管理や早寝早起きなど、当たり前のこと徹底したいです。

「立ち止まることを意識して」などありますが、まずは、みんなの声を出し、あいさつをしてみませんか。そうすることで、「桜色のあいさつ」に近づけると思います。

最後に、私は後輩が頼れるような先輩になりたいです。そのために、1学期に身につけた「仲間と協力する力」「粘り強くやり遂げる力」を生かして、合唱コンクールや修学旅行などの行事に積極的に取り組み、成功させたいです。

また、これから受験シーズンに入ります。3年生が、安心して受験を迎えられるように、全校で相手のことを考えた落ち着いた学校生活を送れるように心がけていきたいと思います。

## 秋の全国交通安全運動

期間：9月21日(水)～30日(金)

◆スローガン◆  
手を上げて  
運転手さんにごあいさつ

◆運動の重点◆

- 1 子どもと高齢者を始めとする歩行者の安全確保
- 2 夕暮れ時と夜間の歩行者事故等の防止
- 3 自転車の交通ルール遵守の徹底
- 4 二輪車関連の交通事故防止(長崎市の重点)

# 調査結果から見えること その2

今回は、「2学期以降課題にしたい評価」「改善したい評価」を一部抜粋してご紹介します。

## 「全国学習状況調査」

①「家で自分で計画を立てて勉強していますか」  
(本校11.5 長崎県13.1 全国15.4)

②「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」  
(本校30.8 長崎県27.4 全国31.2)

③「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」  
(本校13.1 長崎県12.3 全国11.1)

## 「学校評価」

④「いつでも、どこでも、だれでも桜色のあいさつをしていますか」  
(生徒77.4% 保護者88.1% 教職員78.4%)

⑤「自分に必要な学習を

自覚し、粘り強く、意欲的に取り組んでいます」  
(生徒79.9% 保護者68.1% 教職員81.8%)

⑥「地域の文化や歴史を誇りに思い、ふるさとに貢献しようとする気持ちを持っていく」  
(生徒80.2% 保護者65.1% 教職員73.7%)

⑦「自分のスケジュールや健康を自分で管理し、遅刻や欠席をしないで登校できる」  
(生徒81.3% 保護者79.6% 教職員63.4%)

⑧「クロムブックを活用して生徒の学習に対する意欲を高める」(教職員)  
「GIGASTAR構想を踏まえ、一人一台端末の活用を図っている」(保護者)  
(生徒86.0% 保護者87.8% 教職員63.6%)

⑨「学校は、校務の縮減・

効率化等、業務の改善を推進している」  
(教職員44.4%)

## 考察

学校評価の保護者回答では、多くの項目において、8割以上の肯定的な回答が見られる中、「自分に必要な学習を自覚し、粘り強く、意欲的に取り組んでいる」(68.1%)、「地域の文化や歴史を誇りに思い、ふるさとに貢献しようとする気持ちを持っていく」(65.1%)という2つの項目は、肯定的割合が6割台と、保護者の方々も課題としてとらえていることがわかります。

この2つの項目は、まさに、現在、学校が保護者や地域の方々と協働して取り組むべき課題です。新しい「口ナ、戦争・貧困・難民、気象・環境・エネルギーなど、さまざまな問題・課題が私たちの生活に影響を及ぼしており、現実のこととして、変化の激しい予測困難な社会

になってきていることを、多くの保護者の皆様も実感していると思えます。

学校現場では、子どもたちが、これからさらに大きく変化していく社会でたくましく生きていくための資質・能力を身につけるために、「主体的・対話的で深い学び」「協働的な学び、個別最適な学び」をめざす授業改善や「ICTの活用」が求められています。

その資質・能力の基盤となるものが「**学びに向かう力・人間性**」で、「**自分に必要な学習を自覚し、粘り強く、意欲的に取り組むことができる力**」です。「○○を知っている、○○が上手にできる」こと以上に、まずは、「**自分や自分の周りの課題に気づき、それに取り組み、意欲や体力が大切である**」という「やる気」「学びに向かう力の育成のため、ぜひ、今号の初めに紹介している「言葉かけ」を学校と家庭で一緒になって実践しましょう。

もう一つの課題「ふる

さに貢献しようという気持ち」は、学ぼうとする意欲にもつながります。今年度、本校では、「総合的な学習の時間」の取組を見直し、これまで以上に生徒が地域の方とつながりながら、地域について知り、考え、地域のために行動する内容になるように改善を図っています。

学校評価で肯定的な回答の割合が一番低いのが、教職員対象の「学校は、校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している」(44.4%)という項目です。教師は、常に教育的「一」ズに應えるための専門性の向上が求められ、教師という役割への期待感やそれに応える教師の使命感など、教師の仕事には

使命感が欠かせません。その使命感は大切にしながら、未来を担う子どもたちに日々接する教師だからこそ、心身が健康な状態であることがとても重要です。そのための、業務の削減や効率化を目指した取組を、「まずはやってみる」ことにしています。その一つとして、来週から、朝の欠席・遅刻などの連絡を電話ではなく、メールで行います。

## もっとひろがれ 善意の輪

9月5日(月)は台風の影響により部活動をしないで下校しました。夕方5時過ぎに職員室の電話が鳴り、地域の方からのお電話でした。その方がおっしゃるには、飼い犬が散歩中に逃げ出して困っていたところ、桜中2年生数名が率先して動き、チームプレイで犬を捕まえてくれたとのこと。助けてもらったことが嬉しく、お礼を言うために学校に電話をしたそうです。学級担任がその話をしたところ、2年1組の 唐島君、菅野君、倉田君、谷角くん、手塚君、中村君の6名だったことが判明。実はこのメンバー、14日にあった小学校の説明会の時にも率先して動いてくれていました。進んで誰かのために動けるのは、とっても素晴らしいことですね。



率先して人助けをしてくれた6名です。